

「四川リアリズム —30年を経て—」

四川美術学院現代絵画展

日中友好会館美術館

2009年7月25日(土)～8月19日(水)

日中友好会館美術館は、中国現代美術界のトップを走る四川の画家による現代絵画展「四川リアリズム—30年を経て— 四川美術学院現代絵画展」を開催することを発表いたします。



張曉剛／ジャン・シャオガン 《2007—大家庭》 2007年

【注目ポイント】

☆中国現代美術四天王の一人で、国際的に活躍する**張曉剛(ジャン・シャオガン)**も出品。**開幕式参加のため、来日も決定しました。**

☆30年来中国美術界で一目置かれる四川画家達の作品が勢ぞろい、グループとして**初の日本展となります。**

☆中国で知らない人がいない**「郷土絵画」派の祖、羅中立(ルオ・ジョンリー、現四川美術学院院長)**や、**「四川画派」の代表画家何多苓(ハー・ドウオリン)**の作品も展示、**来日も決定しています。**ほか、中国国内のみならず国際的に活躍する画家を多く輩出した四川美術学院ならではの高い技術、内容の出展です。

【広報・報道関係お問合せ先】

財団法人日中友好会館 文化事業部 担当:小林陽子

TEL:03-3815-5085(文化事業部直通)/FAX:03-3811-5263 〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3

e-mail:bunka@jcf.or.jp

ホームページ <http://www.jcf.or.jp/index.html>

(開催概要・趣旨・出展作品については次頁をご覧ください。)

【開催趣旨】

文革終結・改革開放以来、中国美術界を牽引してきた四川・西南地方の画家達。何故内陸部に住む彼らが一目置かれてきたのか—

1970年の終りから1980年初めにかけて、四川、重慶を中心とした西南地方で「**傷痕美術（傷痕リアリズム）**」（※注1）、「**郷土絵画**」（※注2）主義が出現し、中国美術の中心地、北京や上海をはじめ中国全土に一大センセーションを起こしました。

それまで主流だった文革の美化表現に対し、文革時代の農村下放生活、経済高度成長期の農村の人々をありのままに描く表現は当時非常に斬新であり、また「生きることへの想い」、「素朴さ」を込めた情感溢れる描写は、人々に大きな感動と共感を与えました。以来、時代と共に表現を変えながらも、四川の絵画精神は30年経った今も脈々と受け継がれています。

四川美術学院は、四川美術を盛り上げた著名画家の大部分を輩出しています。その多くは創作活動のかたわら、大学の教授・教員として後進の育成にも励んでいます。今回は、中国トップアーティスト 張曉剛（ジャン・シャオガン、現四川美術学院教授）、「郷土絵画」の祖、羅中立（ルオ・ジョンリー、現四川美術学院院長）ほか、この30年来活躍する画家と今後を担う若手有望画家が近年制作した作品を出展します。

「写実主義」という意味のほかに、「ありのままの現実を描写するリアルな視点」という意味を込めて今回の展覧会名となりました。三峡ダム開発、北京オリンピックと経済発展、四川大地震等を経験し、彼らの作品にまた新たな変化が見え始めています。歴史の1ページをリアルに映した四川美術の今にどうぞご注目下さい。



※注1「傷痕美術（傷痕リアリズム）」：1979年中国全国美術展にて注目される。文革時代の体験をテーマに、感傷、批判、反省といった感情を込めた表現が特徴。

※注2「郷土絵画」：1979年～1985年頃全国美術展ほか数々の展覧会で注目される。内陸部の農村の生活や現実を飾ることなくありのまま描写するのが特徴。

※左写真：羅中立（ルオ・ジョンリー）／「父親」 1980年 中国美術館蔵
「郷土絵画」ブームを象徴する代表絵画。今回はパネル展示のみとなります。

【開催概要】

展覧会名：「四川リアリズム—30年を経て— 四川美術学院現代絵画展」

（ヨミ：シセンリアリズム —サンジュウネンヲヘテ— シセンビジュツカクインケンダイカイガテン）

会 期：2009年7月25日（土）～8月19日（水）／休館日：毎週月曜日

開館時間：10時～17時（毎週金曜は19時まで開館）／観覧料：無料

会 場：日中友好会館美術館、大ホール 〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3

主 催：財団法人日中友好会館、四川美術学院

後 援：中国大使館、社団法人日中友好協会、日本国際貿易促進協会、日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、財団法人日中経済協会、社団法人日中協会、中国美術家協会

開 幕 式：7月24日（金）15:00より、その後内覧会

ギャラリートーク：7月24日（金）開幕式終了次第（15:30頃～）

（予定） 7月25日（土）一般向け 15:00～

※来日した四川画家（予定）による解説を予定。

展示内容：四川美術学院の教授、卒業生、在学生による現代絵画 約80点（油絵、一部アクリル画等）

ホ-ムペ-ジ：<http://www.jcfc.or.jp/index.html>

アクセス：都営大江戸線・飯田橋C3出口より徒歩約1分、JR、地下鉄・飯田橋駅より徒歩7分、丸ノ内線・後楽園駅より徒歩10分

お問合せ：03-3815-5085（文化事業部）

【主な作品、画家】



張曉剛／ジャン・シャオガン
《2007-大家族》 2007年

※ジャン・シャオガンの代表のひとつ。2007年サザビーズオークションで約1億円で売却された「大家族」のシリーズ作品。



羅中立／ルオ・ジョンリー
《梯子を下りる農婦》 ※予定



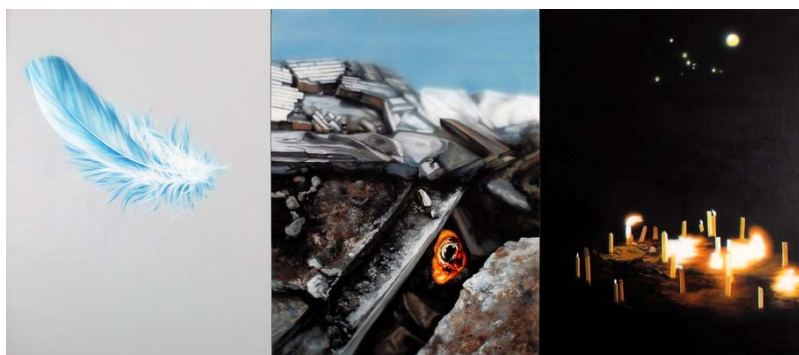
鐘颯／ジョン・ピャオ
《今夜はどこへ?》 2004年



龐茂琨／パン・マオクン
《長い夏の日》 2008年



陳衛閩／チェン・ウェイミン
《帰郷》 2009年



朱海（ジュー・ハイ）
《四川の手紙2008 愛・信念・希望》 2008年



馬文婷（マー・ウェンティン）《即景 NO. 6》 2008年



熊莉鈞（ジョン・リージュン）
《リトルプリンセス》 2008年



張奇開（ジャン・チーカイ）
《嫌食主義者宣言 NO. 1》 2009年

【主催団体概要】

日本側

団体名：財団法人日中友好会館

代表者：会長代行 谷野作太郎

所在地：〒112-0004 東京都文京区後楽 1-5-3

設立：1953 年前身「財団法人 善隣学生会館」設立、1983 年「財団法人 日中友好会館」と改称

URL: <http://www.jcfc.or.jp/index.html>

主な事業：日中文化交流事業、日中青少年交流事業、中国留学生寮運営事業等

日中友好会館美術館について：

日中友好会館ビルが建設された 1988 年以降、1階にある美術館では中国の伝統芸術、現代芸術を毎年数回企画展示しております。2004年より隔年に1度、中国美術大学の現代美術作品展を催しており、今回は、北京清華大学美術学院、杭州中国美術学院に続く、3校目の紹介となります。

中国側

団体名：四川美術学院

代表者：院長 羅中立

所在地：中国重慶市九龍坡区黄桷坪正街 108 号

設立：1940 年

URL: <http://www.scfai.edu.cn/>（中国語、英語）

西南地方最大の美術総合大学で、油絵、中国画、版画、映像、教育、建築など 13 の学部を持ち、学生は 4 万人を超える。中国四大美術大学のひとつで、校内には美術館や図書館のほか、芸術家のアトリエが集まる「戦車庫 (tank loft) 重慶現代芸術センター」を有し、西南地方の現代芸術文化センターとして注目されている。



戦車庫(tank loft)重慶現代芸術センター

元は戦車格納庫だったところを学院が改修、アトリエ、展示等の現代芸術センターとして 2006 年オープン。中国美術界の注目を集めている。

以上